

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・農業と環境		単位数	2	単位	履修年次	1	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を学ぼうとするうえで必要となる基礎的な知識・技術を身につける。 ・実験圃場では共通の研究課題に対して、観察や調査の向学力を身につける。 ・観察・調査したことをレポートに蓄積できる能力を身に付ける。 							
使用教材	【教科書】農業と環境（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	農業及び環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけて、観察や実験・分析を通じて理解を深めている。 農業及び環境に関する基礎的・基本的な技能を身につけている。	農業及びその環境に関する自然界の営みを客観的にみつけ、実証的・論理的な判断や考察ができ、得られた結果を自らの力で確に表現することができる。 実験では観察の視点や分析のあり方を学び、その技術を適切に活用している。	農業及びその環境に関する研究課題に対して関心をもち、問題解決するための主体的な探究心と意欲をもっている。					
評価方法	「関心・意欲・態度」「技能」については主に授業中の様子や課題・提出物などの状況から総合的に判断をして評価します。「思考・判断・表現」「知識・理解」については主に考査と小テストから判断して評価します。具体的には、日々の授業態度、レポートなどの提出物、小テストなどをもとに総合的に評価します。							
学 期	学 習 内 容				学 習 の ね ら い			
2 学期	農業と環境を学ぶ ・農業・環境学習とは何か・農業と環境の学び方私たちの暮らしと農業・農村 ・人間と植物・動物とのかかわり・残念農業と自然・社会とのかかわり・日本の農業と食料供給・農業と国土・環境の保全・農業・農村の役割・これからの農業・農村栽培と飼育の基礎 ・作物の特性と栽培のしくみ ・作物をとりまく環境とその管理 ・家畜の特性と飼育 栽培と飼育のプロジェクト ・栽培と飼育のプロジェクトの実際 ・イネ・トウモロコシ・ダイズ・スイカ ・トマト・ハクサイ・ダイコン・ジャガイモ ・キク・花壇用草花・樹木・ニワトリ・ウシ				<ul style="list-style-type: none"> ・農業と環境の関係を考える ・「農業と環境」を学ぶ有効な学習方法としてのプロジェクト学習を身につける。 ・生物の体を構成する物質循環について学ぶ。 ・環境と調和した農業の役割について知る。 ・わが国の農業技術と自然環境の特徴を知る。 ・農業が国土や環境保全に果たす役割を知る。 ・農業・農村のもつ多面的な機能を理解する。 ・農業技術と生産のあり方を考え今後に生かす。 ・作物の分類と特性について知る。 ・作物栽培にかかわる環境の要素を理解する。 ・家畜に関する基礎知識を身につける。 ・さまざまな農業生物の栽培や飼育を通じ、その農業生物の性質を知る。 ・さまざまな農業生物の生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解する。 			
3 学期	環境調査と環境保全 ・環境の調査 ・環境の保全と修復・再生 ・環境学習のプロジェクト GAP（ギャップ）教育の推進 ・「適正農業規範」の概要解説				<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境の現状、その調査方法を知る。 ・環境を修復・再生し、保全する方法を知る。 ・これまで学んだ環境保全や修復を実践する。 ・食品の安全性を確保するため、農業生産の工程ごとの実施状況と適正な管理手法を示す認証制度をしる。 ・安全性の向上や環境に配慮した農業を推進することで得る経済的メリットを理解する。また、国際的品質基準による農業の競争力を高めさせる。 ・プロジェクト学習の成果をまとめ、発表する方法を身につける。・学校農業クラブ活動の目標や組織について知り、積極的に参加する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを各時限に配布して授業を行います。 ・実験についてはレポートを提出してもらいます。 							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	栽培と環境	単位数	2	単位	履修年次	1	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生産に必要な栽培知識や技術を深め、農業の担い手としての実践力を高める。 ・植物の特性を理解し、環境に配慮した農業が展開できる起業力を養う。 						
使用教材	【教科書】栽培と環境（実教出版）						
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	農業の基礎知識を理解し、農業の現場に活かせる力を備えている。栽培科学に関する重要な事柄や技術用語を理解できている。	栽培の基本技術、土壌・肥料・植物体の特性、生理機能などについて、科学的な判断力と分析力を備えている。地上、地下部両面にわたる各種測定・計算方法を身につけ、現場対応が迅速に行える素質がある。	環境に配慮した植物生産の現場構築をめざしている。PL法を遵守して、人・周辺動植物とのバランス感覚を有している。				
評価方法	目標を踏まえ、栽培科学に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。						
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い					
2学期 2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の基本 ・土（土作りの基礎） 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生長を科学的な方法で測定する。各種測定方法を理解して、技術の向上を図る。 ・肥料や農薬の測定法を学び、安全な使用について理解を深める。 ・園芸作物の生長と発育と栄養、環境、栽培管理との関係について理解し、併せて栽培管理の方法についても理解する。 ・土壌学の基礎的知識を得るとともに、作物生産や環境問題に対する知識を習得する。 ・土壌中で起こる生化学反応とそれに関わる生物群の働きを理解すると共に、生物生産と環境保全における土壌機能の維持・強化の方策を考える。（土壌の団粒構造、土壌水分、風化作用、土壌生成作用、土壌pH、植物生育、土壌酸性の原因と改良など） 					
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料（土の養分と堆肥） 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の要素、施し方、肥効を高めるための土壌改良のあり方を理解する。 ・堆肥の働きを知り、有益な土壌作成に役立てる。 ・土壌の悪化の要因を学び、地力回復の方法を研鑽する。 ・肥料の性質、肥効、歴史的背景と変遷について把握したうえで、環境保全と施肥農業にたいする認識を深める。 ・化学肥料についての種類、形態、製法と肥効などを理解する。（窒素質肥料、リン酸質肥料、カリ質肥料、石灰質肥料、ケイ酸質肥料、苦土肥料、複合肥料、その他の無機質肥料） ・有機質肥料についての種類、形態、製法と肥効などを理解する。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習量がたくさんあります。毎日の授業内容（板書メモなど）をその日に振り返り、覚える習慣をつけてください。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・総合実習	単位数	4 単位	履修年次	2 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の各分野に関する体験的な学習を通して、経営と管理についての理解を深める。 ・企画力や管理能力などを身につけ、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を養う。 ・果樹、野菜（蔬菜）、草花（花き）など園芸作物全般の栽培や育種（バイオ）、作業機械の扱い方などについて幅広く学ぶ。 				
使用教材	【副教材】授業のなかで参考図書を紹介、資料を提供します。				
評価の観点・評価規準	関心・態度・意欲 農業実習に対して意欲的に取り組むことができる。農業生産の仕組みや役割などに関心をもち、その課題を科学的に解決する態度を身につけている。	思考・判断 農業の安全安心や環境に配慮しながら、栽培管理の改善や品質と生産性の向上を図る思想を備えている。	技能・表現 栽培計画や生産管理課題の解決のために知識と技術を適切に活用し、創意工夫する能力が身につけている。	知識・理解 農産物の生産が体系化・総合化された技術であることを理解している。また、生育環境の整備および栽培工夫・改善策が進化していることを理解している。	
評価方法	目標を踏まえ、総合実習に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、筆記試験（効果測定）等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期 2 学期	野菜 秋作育苗、春秋苗管理、定植、栽培管理、収穫、播種ほか 果樹 樹園管理、摘花、摘果、摘粒、摘房、袋かけ、収穫ほか 草花 一・二年草、宿根草、ラン科植物、球根類、花木類の栽培 バイオ 品種改良、菌類の利用 農業機械		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜、果樹、草花、生物工学（組織培養・バイオマス・菌類含）の栽培に関する基本的な作業の方法とその目的を学習する。 ・土や植物にふれることにより、農業学科と対する自覚や技術を身につける。 ・人工交配の基礎技術や菌類の育成方法を理解する。 ・各種機具の安全操作と基本取扱方法を学ぶ。 		
2 学期 3 学期	野菜 春作育苗、苗管理、定植、栽培管理、追肥、収穫、圃場土作り、播種ほか 果樹 樹園管理、施肥、剪定、誘引、仕立てほか 草花 一・二年草、宿根草、ラン科植物、球根類、花木類の栽培 バイオ 品種改良、菌類の利用、バイオマス利用、食農教育（味覚教育含） 学校農業クラブ活動 GAP（ギャップ）教育推進		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜と果樹の栽培管理の方法・目的を学ぶ。 ・鉢上げ、腐葉土作成技術、花を長く咲かせる技術等を理解する。 ・品種交配の成果分析、菌床確保の方法、身近なバイオマス原料の取り扱い方法を学ぶ。 ・学校農業クラブに関する知識を高める。 ・国際競争力のある安全安心な農業体系を学ぶ。 		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・植物栽培は、実際に物に触れることが最も勉強になります。いろいろな体験をすることで、農業に関する知識や技術を身に付けることができます。成果を互いに確認し合いながら、安全に心掛けて取り組んでください。 ・服装は適正な実習服等を着用してください。 ※2年次ではローテーション学習（実習）を基本とします。講義については、クラス全員で実施します。 				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(生物資源科)・草花	単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得する。 ・草花の特性や生産に適した環境を理解する。 ・品質と生産性の向上および経営の改善を図る能力と態度を養う。 				
使用教材	【教科書】草花(実教出版)				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度 草花の生育過程や、生理作用、栽培環境と生育の調節や環境に配慮した草花栽培の技術の仕組みを積極的に学ぼうとしている。また、経営改善に必要な起業精神を有している。	思考・判断 草花の特性と栽培環境の相互関係から草花の生育と環境の調節について理解し、草花生産に関する科学的な見方と実践力を身につけている。	技能・表現 作型の選定などの栽培計画、各生育段階の特性に応じた栽培管理、各生育段階の診断方法を身につけ、その成果を適切に表現できる。	知識・理解 我が国を中心に、生活の変化に伴う草花の利便の変化を踏まえた草花生産及び需給の技術の仕組みを理解している。経営改善に必要な幅広い視野に立った知識を習得している。	
評価方法	目標を踏まえ、草花に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	第1章 草花生産と消費の動向 ・草花園芸の特徴 ・草花の種類 ・草花の生産形態 ・草花生産の動向 ・消費動向 ・流通のしくみと国際化 第2章 生活と草花の利用 ・草花の多面的利用 ・草花利用の意義 ・草花の利用 ・ヒューマンサービスと草花 ・園芸デザイン		<ul style="list-style-type: none"> ・種類や分類を覚え、これからの広がりや課題について考える。 ・東海地方の気候特性や三重県の草花栽培の現状を把握する。 ・草花がどのように流通しているのか、また草花の輸出入の状況について理解する。 ・草花が生活のなかでどのように利用されているについて考える。 ・切り花・鉢もの・花壇用草花の用途について理解する。 ・草花の装飾的特性を理解し、装飾的特性をいかした利用方法を習得する。 		
2 学期	第3章 草花の特徴と栽培技術 ・草花の生育と環境 ・品種改良と繁殖 ・草花の生育と栽培技術 ・生産施設と栽培環境の調節		<ul style="list-style-type: none"> ・草花の生育過程、生理作用、栽培環境と生育調節や環境に配慮した草花栽培の技術体系を理解する。 		
3 学期	第5章 鉢もの生産 ・鉢もの生産の特色 ・鉢ものの生産資材と商品化技術 ・鉢花 ・観葉植物 ・洋ラン 第7章 草花経営の改善 ・生産の課題と改善 ・流通の課題と改善		<ul style="list-style-type: none"> ・鉢ものとして栽培される種類、鉢ものの生産形態や栽培的特性について理解する。 ・鉢花・観葉植物・洋ランの適切な栽培計画の立案、栽培管理・開花調節の技術を理解する。 ・品種の選定、作業管理、施設利用、生産費と流通の手段や経費、農業生産工程管理など草花の生産と経営改善の基本を習熟する。 ・伊賀地域、周辺地域に即した一連の生産活動及び経営の改善に取り組む起業精神を養う。 		
学習上の留意点	・基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域生産の実態や本科の特色に応じた題材を用いることがあります。(上農高時代に品種育成登録完了のストレプトカーパス「爽涼」など)				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・畜産	単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産振興と生産経営に必要な知識と技術を習得する。 ・動物の特性や成育環境を理解する。 ・伊賀地域に応じた地産地消の意義を学ぶ。 						
使用教材	【教科書】畜産（実教出版）						
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	動物の役割や生理・生態に関心を持ち、食生活の変化を踏まえた畜産業の役割を考えている。	現代畜産の特徴とあゆみについて知り、世界と向き合える思考力に期待する。伊賀地域の気候特徴と飼育管理への留意が科学的にすすめられている。	あたたかく思いやりのある態度や姿勢が表現されている。飼育・肥育計画、成育段階の特性に応じた飼育・肥育管理、診断方法を身につけ、その成果を適切に表現できる。	動物の種別による特徴理解があり、衛生的な配慮ができる。流通手段や経費、経営の改善について理解している。			
評価方法	目標を踏まえ、畜産に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	第1章 日本の畜産の特徴と役割 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の畜産の特徴 ・日本における畜産物の需給の動向 ・畜産の役割 ・科学の発展と畜産への活用 第2章 家畜の生理・生態と飼育環境 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の生理・生態 ・飼育環境の調節 ・家畜排せつ物の処理と利用 			<ul style="list-style-type: none"> ・人と動物のあゆみについて学び、限りある資源のなかから、国際的な視野にたつての需要と供給のバランスを鑑みる。 ・生理・生態の把握と現状と未来を探る。 ・生産が及ぼす影響と有効活用について習得する。 ・地域ブランドの在り方と未来を創造する。 			
2 学期	第3章 家畜と飼料 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の栄養と栄養素 ・家畜の消化器官と飼料の消化・吸収 ・飼料の特性と給与 ・飼料作物の特徴と草地の管理 			<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の消化管の特徴および飼料の消化・吸収の特徴を理解する。 ・シカゴ市場を睨むだけではなく、この地域における飼料確保を推進する方法を模索する。 ・安全で安心な飼料栽培を考えていく。 			
2 学期 3 学期	第4章 家畜の飼育 <ul style="list-style-type: none"> ・養鶏 ・養豚 ・酪農 ・肉牛の飼育 ・そのほかの家畜 ・野生生物への対応 第5章 畜産経営の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営の基礎 ・畜産経営の改善 			<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの「品種の特性」「施設設備の方式と形態」「飼育・肥育技術」「衛生・健康管理」「付加価値を高める技術」「飼育・肥育計画と経営」について習熟する。 ※伊賀ブランド「伊賀山麓豚」「伊賀牛」については、最重要学習領域とする。 ・畜産振興に関わる現状や課題を整理して、理解に努める。そのうえで、有効な情報活用をできる素地を磨く。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域の実態や本科の実践学習に適した題材を用いることがあります。（インターンシップ等で必要な基礎知識を重んじる） ・食生活と人の営みに関係する授業です。消費者と生産者相互の安全安心を真摯に考えることのできる人材育成を目指して授業を行います。わからないことは積極的に質疑するよう心がけてください。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業（生産ビジネスコース）・簿記	単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 ・帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を養う。 				
使用教材	<p>【教科書】新簿記（実教出版） 【副教材】簿記問題集など</p>				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。	いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解している。	
評価方法	目標を踏まえ、簿記に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価する。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1～2 学期	第1編 簿記の基礎		<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意味・目的などを理解し、学習の心構えを養う。 ・資産・負債・資本・収益・費用のそれぞれの意味と種類および貸借対照表・損益計算書の概要を理解する。 ・決算にかかる手続きを理解し、決算に必要な諸表を理解する。 		
2～3 学期	第2編 取引の記帳		<ul style="list-style-type: none"> ・3分法による商品売買にかかる計算法・記帳法を理解する。 ・決算整理を含む決算手続きの学習により、複式簿記のしくみを確実に把握する。 ・約束手形と為替手形の違いを学習しこれらの記帳法を理解する。 ・簿記上の有価証券の意味を、特に売買目的有価証券について理解する。 ・営業費の内容と記帳法を理解する。 		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に教科書に沿った授業をしますが、全商簿記検定にも対応できるように検定前には検定対策も実施します。 ・教科書・副教材、電卓を忘れずに持参してください。 ・説明をよく聞き、授業に集中し、わからないことは積極的に質問をして理解するように心がけてください。 ・欠席や遅刻をしないように心がけてください。 				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(生物資源科)・野菜	単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得する。 ・野菜の特性や生産に適した環境を理解する。 ・品質と生産性の向上および経営の改善を図る能力と態度を養う。 						
使用教材	【教科書】野菜(実教出版)						
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度 野菜の役割や生理現象に関心を持ち、食生活の変化を踏まえた野菜の役割、野菜の多様な利用形態および需要の動向について実践的な態度を身につけている。	思考・判断 観察や実習とも結びつけ野菜の特性と栽培環境の相互関係から野菜の生育と環境調節および人工環境における栽培技術について科学的な見方と実践力を身につけている。	技能・表現 作型の選定などの栽培計画、各生育段階の特性に応じた栽培管理、各生育段階の診断方法を身につけ、その成果を適切に表現できる。	知識・理解 作業の順序、管理、加工と鮮度の保持、流通手段や経費、経営の改善について理解している。また、ポジティブリスト制度などを理解し、食生活を支援できる力を備えている。			
評価方法	目標を踏まえ、野菜に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	第1章 野菜生産の役割と動向 ・野菜とは ・野菜の生産と消費 第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 ・野菜の生育と生理 ・野菜の栽培環境と生育調節 ・人工環境による栽培技術			・各野菜の分類を学び、その特性や利用法について理解する。国際的な視野にたって生産と消費の状況を把握して、三重県の野菜生産の状況を理解する。 ・野菜の生育上の特徴と、生理と環境の関係を理解する。 ・栽培環境が及ぼす影響と調節方法について習得する。			
2 学期	第3章 野菜の育苗 ・育苗の目的と方法 ・育苗技術の実際と応用 第4章 果実を利用する野菜の栽培 キュウリ、ハウスメロン、スイカ、カボチャ、トマト、ナス、ピーマン、イチゴ、スイートコーン			・苗の作り方重要性和育苗の方法と技術について準備から硬化まで全てを理解する。 ・それぞれの野菜の「栽培上の特性」「経営上の特性」「作型と品種の選び方」「栽培管理」「商品価値を高める技術」「栽培の評価」について習熟する。			
3 学期	第5章 葉や茎を利用する野菜の栽培 日の菜、キャベツ、ハクサイ、レタス、ネギ、ブロッコリー、ホウレンソウ、タマネギ、オオバ 第6章 根を利用する野菜の栽培 ダイコン、ゴボウ、ニンジン 第7章 野菜の流通と経営改善 ・野菜の流通と鮮度保持 ・野菜生産の経営改善と課題			・それぞれの野菜の「栽培上の特性」「経営上の特性」「作型と品種の選び方」「栽培管理」「商品価値を高める技術」「栽培の評価」について習熟する。 ・流通の仕組みと販売方法、鮮度を保持する技術について理解する。 ・野菜に関わる現状や課題を理解し、対応する力を養う。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域農業の実態や本科の特色に応じた題材を導入することがあります。(「作物」を開設していないため工芸作物類も導入予定) ・食生活に直接関わる授業です。消費者と生産者相互の安全安心を真摯に考えましょう。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（バイオサイエンスコース）・グリーンライフ		単位数	2	単位	履修年次	3	年	
目 標	緑ある農業農村のもつ多面的な機能や魅力を発見し、それらを活用して人と人（都市と農村）が交流し、新たな余暇活動と農のビジネススタイルを創造していく。								
使用教材	【教科書】グリーンライフ（実教出版）								
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解					
	各地の現状について学び、それらを活かし地元提供できる開発力と態度を身につけている。	地域の実情を把握し、活動をするための基盤づくりができる。宣伝、情報発信、アピールの企画力を身につけている。	人づくりと対応の工夫をしている。また、体験メニューが設定できる力を身につけている。	地域資源の性質を把握している。さらに農業の社会的役割について理解できている。					
評価方法	目標を踏まえ、グリーンライフに対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」、「技能・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・理解」については定期考査をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、小テスト等をもとに、総合的に判断し評価します。								
学 期	学 習 内 容				学 習 の ね ら い				
1学期 ～ 2学期	<p>「グリーンライフ」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活と「グリーンライフ」 ・「グリーンライフ」と交流・余暇活動型経営 ・「グリーンライフ」の学びの世界 <p>農業農村の発見と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業農村の魅力と「農」の世界を探る ・自然環境と農業農村の発見・活用 ・地域農産物の発見と栽培・加工 ・農村分化の発見と活用 ・農業農村体験の企画と指導、援助 ・農業農村の機能の総合的な活用 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの周りある身近すぎて気付かないたくさん自然があることを理解する。 ・先進国ヨーロッパに学び、日本型グリーンライフの将来を思考する。 ・農業を介して行われる取組み例を挙げ、農業との関連性を理解する。 				
3学期	<p>グリーンツーリズム（GT）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GTの特徴とあゆみ ・GTのおもな取り組み ・GTの企画と運営 ・GTと農業農村生活の向上 <p>市民農園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民農園の特徴とあゆみ ・市民農園の開設と運営 ・市民農園と農業農村生活の向上 <p>観光農園、直売所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園、直売所の特徴とあゆみ ・企画、開園と運営 				<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムができた経緯やその意義及び特徴について理解する。 ・市民農園によって交流が活発になり、通じることによって開設者・利用者に相互作用が生じることを理解する。 ・観光農園と直売所について知り、それぞれの特性を理解する。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材は購入しません。上記副教材を必要に応じてプリントして授業を行います。 ・課題やレポートの提出は提出期限に遅れないように注意してください。 								

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(生物資源科)・果樹		単位数	2	単位	履修年次	3	年	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹の生産と経営に必要な知識と技術を習得する。 ・果樹の特性や生産に適した環境を理解する。 ・品質と生産性の向上および経営の改善を図る能力と態度を養う。 								
使用教材	【教科書】果樹(実教出版)								
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度 果樹の役割や生理現象に関心を持ち、食生活の変化を踏まえた果樹生産の役割、多様な利用形態および需要の動向について実践的な態度を身につけている。	思考・判断 観察や実習とも結びつけ果樹の特性と栽培環境の相互関係から果物の生育と環境調節および人工環境における栽培技術について科学的な見方と実践力を身につけている。	技能・表現 作型の選定などの栽培計画、各生育段階の特性に応じた栽培管理、各生育段階の診断方法をも身につけ、その成果を適切に表現できる。	知識・理解 作業の順序、管理、加工と鮮度の保持、流通手段や経費、経営の改善について理解している。また、ポジティブリスト制度などを理解し、食生活を支援できる力を備えている。					
評価方法	目標を踏まえ、果樹に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。								
学 期	学 習 内 容				学 習 の ね ら い				
1 学期	第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向 ・果樹の種類と果実の利用 ・果樹栽培の動向 第2章 果樹の生育と栽培環境 ・果樹の生育と生理 ・果樹栽培と環境				・果樹の分類を学び、その特性や利用法について理解する。生産と消費の状況を把握して、三重県・国の生産状況を理解する。 ・生育上の特徴と、生理と環境の関係を理解する。 ・栽培環境が及ぼす影響と調節方法について習得する。				
2 学期	第3章 果樹の栽培管理 ・苗木の育成 ・開園と更新 ・土壌管理 ・栄養と施肥 ・水分管理 ・結実管理 ・結果調節 ・結果習性と整枝・剪定 ・気象災害の防止 ・病害虫の防除 ・植物成長調節剤の利用 ・施設栽培と特殊栽培 第4章 カンキツ類 第5章 リンゴ 第6章 ナシ 第7章 ブドウ				・苗の育成方法と管理技術を理解する。 ・果樹園の土壌・施肥・水分管理について習得する。 ・それぞれの果樹の結果習性を理解し、どのような整枝・剪定すればどのように結果するかについて考える。 ・それぞれの果樹の「栽培上の特性」「経営上の特性」「作型と品種の選び方」「栽培管理」「商品価値を高める技術」「栽培の評価」について習熟する。				
3 学期	第8章 モモ 第9章 カキ 第10章 その他の果実 ウメ、スモモ オウトウ ビワ キイフルーツ イチジク ブルベリー マンゴー 第11章 果実の流通と経営改善 ・果実の流通と改善 ・果実の経営と改善				・それぞれの果樹の「栽培上の特性」「経営上の特性」「作型と品種の選び方」「栽培管理」「商品価値を高める技術」「栽培の評価」について習熟する。 ・流通の仕組みと販売方法について理解する。 ・果実の経営の現状や課題を理解し、対応力を養う。				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域農業の実態や本科の特色に応じた題材(ブドウ・ナシ中心)を中心に進めることもあります。 ・食生活に結びつく授業です。消費者と生産者相互の安全安心を真摯に考えることのできる人材養成を目指します。わからないことは積極的に質疑するよう心がけてください。 								

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・課題研究	単位数	3 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。 ・問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育む。 				
使用教材	【副教材】授業の際に参考図書等を紹介しします。				
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	<p>課題の設定や計画立案などから研究活動に至るまで意欲的に熱心に取り組んでいる。</p>	<p>調査研究の結果を適確に判断し、結果の要因を考察できるか。また、状況判断が的確にでき、状況によっては実験の追加や変更ができる。</p>	<p>実験実習の手順や方法が身に付いており、活動日誌の作成や発表会に向け準備ができてい</p>	<p>プロジェクト学習や調査研究に必要な総合的な知識が身に付いて</p>	
評価方法	<p>考查は実施しませんが、研究の経過報告を毎月行います。「活動状況」「活動記録」「経過報告」を総合的に判断し、評価を行います。</p>				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	1 プロジェクト学習について		<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習について再認識をする。 ・自己の在り方や生き方についても考え課題を設定する。将来の進路実現に向けて取り組んでいく。 		
	2 課題設定		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例の探索を通して、情報を収集して研究目標や仮説を設定する。 		
	3 年次計画の作成		<ul style="list-style-type: none"> ・日数や施設設備、材料などの検討を行い、計画を行う。 		
	4 調査研究		<ul style="list-style-type: none"> ・年次計画に沿った科学的、合理的な調査研究を進める。客観的なデータの収集を図る。 		
	5 中間報告会		<ul style="list-style-type: none"> ・次段階のデータを整理して、報告することで最終報告会に備える。 		
2 学期 ～ 3 学期	6 調査研究		<ul style="list-style-type: none"> ・研究の継続性を高める。 		
	7 データの整理		<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育で得た知識、技術を活かし、表やグラフの作成力を試す。 		
	8 発表資料（要旨）と論文提出資料まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を的確にまとめ、発表会に向け「伝える力」を磨く。 		
	9 卒業論文報告会		<ul style="list-style-type: none"> ・表現力を豊にする。多様な価値観を共有する。 		
学 習 上 の 留 意 点	<p>5 班に分かれて、プロジェクト学習を行います。自分たちで課題を見つけ活動する授業です。テーマの設定研究テーマは自分たちで決めてください。最終的には卒論報告会として発表会します。日頃の活動をしっかりと記録してください。また、記録の保存は正確に行ってください。</p>				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(バイオサイエンスコース)・栽培科学		単位数	2	単位	履修年次	3	年	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生産に必要な栽培知識や技術を深め、農業の担い手としての実践力を高める。 ・植物の特性を理解し、環境に配慮した農業が展開できる起業力を養う。 								
使用教材	【副教材】自作教材								
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度 環境に配慮した植物生産の現場構築をめざして、人・周辺動植物とのバランス感覚を有している。	思考・判断 栽培の基本技術、土壌・肥料・植物体の特性、生理機能などについて、科学的な判断力と分析力を備えている。	技能・表現 地上、地下部両面にわたる各種測定・計算方法を身につけ、現場対応が迅速に行える素質がある。	知識・理解 農業の基礎知識を理解し、農業の現場に活かせる力を備えている。栽培科学に関する重要な事柄や技術用語を理解できている。					
	評価方法 目標を踏まえ、栽培科学に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。								
学 期	学 習 内 容				学 習 の ね ら い				
1 学期	・栽培技術の基本				<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生長を科学的な方法で測定する。各種測定方法を理解して、技術の向上を図る。 ・肥料や農薬の測定法を学び、安全な使用について理解を深める。 ・園芸作物の生長と発育と栄養、環境、栽培管理との関係について理解し、併せて栽培管理の方法についても理解する。 				
2 学期	・土(土作りの基礎)				<ul style="list-style-type: none"> ・土壌学の基礎的知識を得るとともに、作物生産や環境問題に対しての知識を習得する。 ・土壌中で起こる生化学反応とそれに関わる生物群の働きを理解すると共に、生物生産と環境保全における土壌機能の維持・強化の方策を考える。(土壌の団粒構造、土壌水分、風化作用、土壌生成作用、土壌 pH、植物生育、土壌酸性の原因と改良など) 				
3 学期	・肥料(土の養分と堆肥)				<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の要素、施し方、肥効を高めるための土壌改良のあり方を理解する。 ・堆肥の働きを知り、有益な土壌作成に役立てる。 ・土壌の悪化の要因を学び、地力回復の方法を研鑽する。 ・肥料の性質、肥効、歴史的背景と変遷について把握したうえで、環境保全と施肥農業にたいする認識を深める。 ・化学肥料についての種類、形態、製法と肥効などを理解する。(窒素質肥料、リン酸質肥料、カリ質肥料、石灰質肥料、ケイ酸質肥料、苦土肥料、複合肥料、その他の無機質肥料) ・有機質肥料についての種類、形態、製法と肥効などを理解する。 				
学習上の留意点	・学習量がたくさんあります。毎日の授業内容(板書メモなど)をその日に振り返り、覚える習慣をつけてください。								

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(バイオサイエンスコース)・植物バイオテクノロジー		単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を学び、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解して農業の各分野で活用する能力と態度を養う。					
使用教材	【教科書】植物バイオテクノロジー (実教出版)					
評価の観点・評価規準	関心・態度・意欲 興味関心を持ち、細胞のメカニズムや特徴、働きのメカニズムや特徴、働きの見受けられ、班員と協力をして実験する意欲と態度が身についている。	思考・判断 実験の成否の原因を考察する力と試薬の計算や適切な使用を判断する力を身につけている。	技能・表現 正確な実験操作の技術を身につけ、各学習領域で技術的な目標達成がなされている。	知識・理解 バイオの概要や利用分野、種々の培養方法および目的について理解している。		
評価方法	「関心・意欲・態度」「技能・表現」については主に授業中の様子や課題・提出物などの状況から総合的に判断をして評価します。「思考・判断」「知識・理解」については主に考査と小テストから判断して評価します。評価全体に占める割合は、考査25%、日常の授業での取り組み50%(講義25%、実習25%)、レポート・提出物・小テスト25%です。					
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い		
1 学期	植物組織培養の実際 ・ラン類の播種と培養 ・茎頂培養 ・組織片の培養 ・やく培養 ・胚培養			・ラン類の無菌播種法と共生培養法の技術を習得する。 ・茎頂培養・組織片の培養・胚培養の特徴や目的について理解する。 ・やく培養の目的と利用について理解する。		
2 学期	細胞融合と遺伝子組み換え ・細胞融合 ・遺伝子組み換え			・細胞融合の目的と利用を理解し、その方法について知る。 ・遺伝子組み換えの原理を理解し、その方法について知る。		
3 学期	バイオマスの利用 ・バイオマスとは何だろう ・バイオマスエネルギーの変換利用 植物バイオテクノロジーの成果と展望 ・農業における植物バイオテクノロジーの成果 ・植物バイオテクノロジーの展開			・バイオマスとは何かを理解し、その役割と利用について学ぶ。 ・バイオマスをエネルギーとして利用するときの基本原則を理解する。 ・農業における植物バイオテクノロジーの野成果を知り、その可能性を学ぶ。 ・環境保全に対する植物バイオテクノロジーの可能性を理解する。		
学 習 上 の 留 意 点	・実験を多く取り入れた授業です。今までに見たことのないような植物の特別な姿を見ることがありますが、試薬・実験器具等の使用で危険もついてきます。必ず指導者の指示に従ってください。(白衣必着用)					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(生物資源科)・総合実習	単位数	4 単位	履修年次	3 年	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動を通して、経営と生産管理についての理解を深める。 ・企画力や生産管理能力などを身につけ、各分野での改善を図る能力と態度を養う。 ・一人一品目の栽培種を決め、系統的な学習を進める。 					
使用教材	【副教材】授業の際に参考図書等を紹介します。					
評価の観点・評価規準	<p>関心・態度・意欲</p> <p>農業実習に対して意欲的に取り組むことができる。農業生産の仕組みや役割などに関心をもち、その課題を科学的に解決する態度を身につけている。</p>	<p>思考・判断</p> <p>農業の安全安心や環境に配慮しながら、栽培管理の改善や品質と生産性の向上を図る思想を備えている。</p>	<p>技能・表現</p> <p>栽培計画や生産管理課題の解決のために知識と技術を適切に活用し、創意工夫する能力が身につけている。</p>	<p>知識・理解</p> <p>農産物の生産が体系化・総合化された技術であることを理解している。また、生育環境の整備および栽培工夫・改善策が進化している。</p>		
評価方法	<p>目標を踏まえ、総合実習に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、筆記試験(効果測定)等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。</p>					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	<p>食用植物 (野菜) 秋作育苗、春秋苗管理、定植、栽培管理、収穫、播種ほか</p> <p>(果樹) 摘果・摘房・整房・袋かけ・収穫・樹園管理ほか</p> <p>観賞植物 一・二年草、宿根草、ラン科植物、球根類、花木類の栽培</p> <p>バイオ 品種改良、菌類栽培、食農教育(味覚教育含)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・食用植物、観賞植物、バイオテクノロジー(バイオマス・菌類含)の3つの部門より、専攻を選び生産効果の上がる学習を試みる。 ・農業人としての自覚を身につける。 ・環境に配慮した持続的な農業を奨める。 ○新しい生産体系を構築していく。 ○肥料・土の外国依存を見直し、循環型農業をすすめる。 			
2 学期 ～ 3 学期	<p>食用植物 (野菜) 春作育苗、苗管理、定植、栽培管理、追肥、収穫、圃場土作り、播種ほか</p> <p>(果樹) 樹園管理、施肥、剪定、誘引、仕立てほか</p> <p>観賞植物 一・二年草、宿根草、ラン科植物、球根類、花木類の栽培</p> <p>バイオ バイオマス利用の実際</p> <p>GAP(ギャップ)教育推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・国際競争力のある安全安心な農業体系を学ぶ。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・植物栽培は、実際に物に触れることが最も勉強になります。いろいろな体験をすることで、農業に関する知識や技術を身に付けることができます。成果を互いに確認し合いながら、安全に心掛けて取り組んでください。 ・服装は適正な実習服等を着用してください。 					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生産ビジネスコース）・農業経済	単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の経済活動に関する知識と技術を習得する。 ・ 流通および市場の原理を理解させるとともに、流通の改善を図る能力と態度を養う。 						
使用教材	農業経済（東京電機大学）						
評価の観点 ・ 評価規準	（関心・意欲・態	（思考・判断）	（技能・表現）	（知識・理解）			
	・ 経済活動や仕組みへの関心・興味を持っているか。 ・ 平素の学習状況において努力し、積極的に取り組んでいるか。	・ 農業経済に関する様々な諸問題の解決を目指した考えを持っているか。	・ 農業経済に関する調査を実施し、それを活用する能力を身につけているか。	・ 将来、社会で活動するための基礎的・基本的な知識を習得できているか。			
評価方法	目標を踏まえ、農業経済に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。						
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い					
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の農業と世界の食料需給 ・ 食料供給と農業 ・ 農産物の需給と価格形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重県の食料生産や消費の状況、国や世界の食料需給について学習し、わが国の農業の役割並びに国際的な食料需給の動向が農業生産や国民生活に及ぼす影響について理解する。 ・ 農業に関係する国際的な経済情勢について習得する。 ・ 農産物市場の仕組み、価格形成の原理、市場の役割を理解する。 					
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の流通と経済 ・ GAP(ギャップ)実践例を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の流通の構造や機能に関する知識について習得する。 ・ 主要な GAP 例を知り、安全安心な農業を目指すとともに競争力のある農業を模索する。 					
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産の組織 ・ 農業と情報 ・ 農業政策と関係法規 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の生産組織に関する知識を習得し、それらの経済活動や経営について理解する。 ・ 農業情報システムに関する知識を習得させ、情報の収集や管理、情報の客観的分析、情報の活用方法を理解する。 ・ 農業生産と農業政策との関係について理解し、関係法規を農業生産や経営、流通において活用する態度を習得する。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に教科書の内容に沿って授業を進めます。必要に応じてプリント活用した授業を行います。 ・ 課題やレポートの提出は提出期限に遅れないように注意してください。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業（生産ビジネスコース）・簿記	単位数	4	単位	履修年次	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 ・帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を養う。 						
使用教材	【教科書】 新簿記（実教出版） 【副教材】 簿記問題集など						
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。	いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解している。			
評価方法	目標を踏まえ、簿記に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価します。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期 ～ 2 学期	第3編 決算 その1 第4編 会計帳簿と帳簿組織 第5編 決算 その2			<ul style="list-style-type: none"> ・決算手続きの基本的流れと決算整理をともなった決算を学習する。 ・大量の取引を正確かつ迅速に処理するために、帳簿組織や伝票を用いて記帳する方法を学習する。 ・2区分損益計算書と貸借対照表の形式を説明し、作成方法を習得する。 			
2 学期 ～ 3 学期	第7編 取引の記帳 第8編 本支店会計			<ul style="list-style-type: none"> ・特殊仕訳帳、5伝票制を利用した会計処理について学習する。 ・支店会計が独立している場合の記帳法と本支店の財務諸表の合併について学習する 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に教科書に沿った授業をしますが、全商簿記検定にも対応できるように検定前には検定対策も実施します。 ・教科書・副教材、電卓を忘れずに持参してください。 ・説明をよく聞き、授業に集中し、わからないことは積極的に質問をして理解するように心がけてください。 ・欠席や遅刻をしないように心がけてください。 						